

源氏物語

御息所

「ぬくもりの消えぬうちに、又、参ります。
「お心にもないことを。」



藤壺

「本当にわたくしなのでじようか、
あなたが求めておいでなのは。」

葵

「あの子は、生まれたくなかったのでしょうか。」

「あの時あのまま
あなたを失つてしまふかと、
生きた心地もしなかつた。」

夕顔

「もう幾度あなたの許に
通つたでしよう…。」

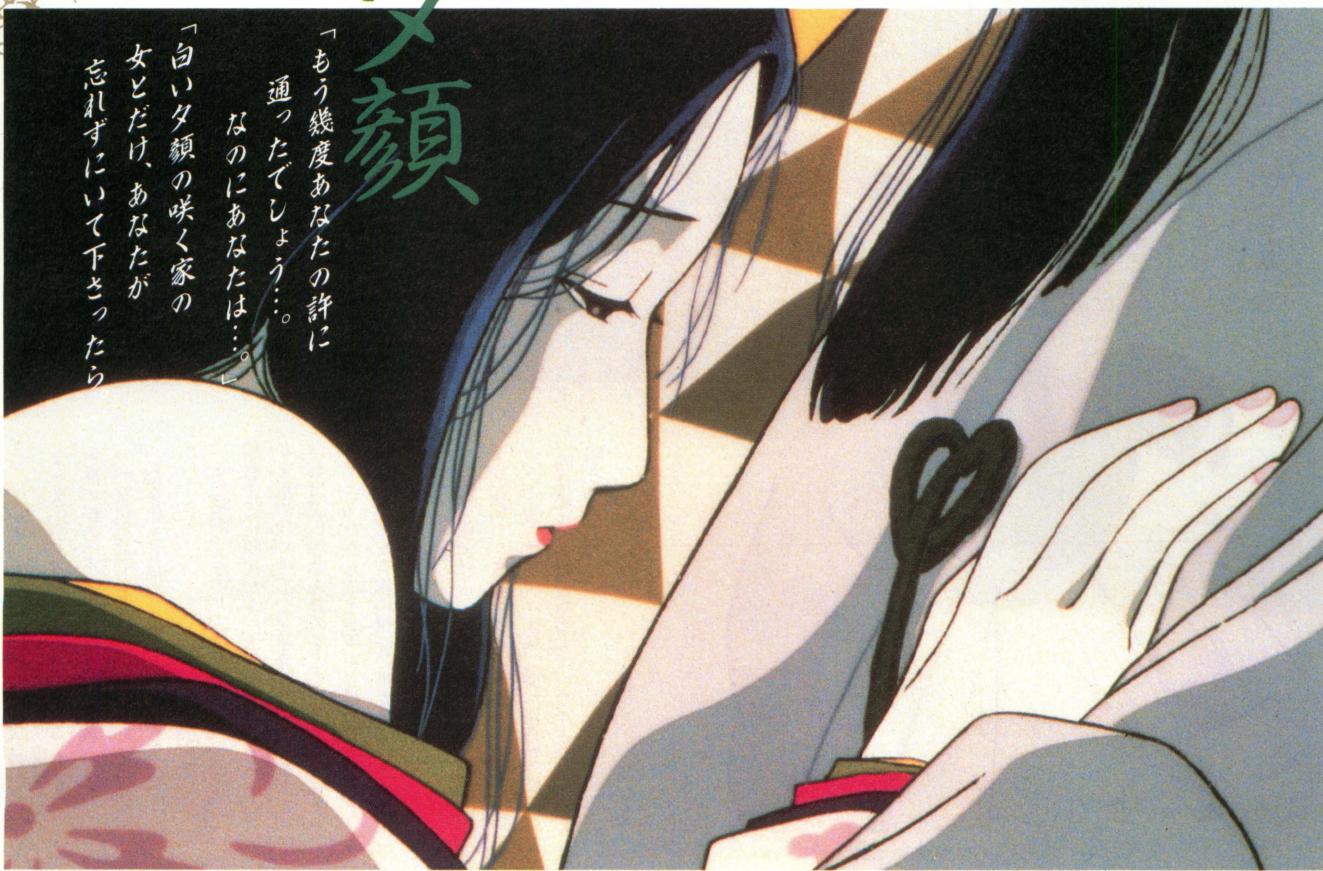
「わたくしがここにいると思えば
あなたはそことご無事で戻つてくださる。」

「お急ぎにならないと、
夜の闇が
消えてしましますわ。」

「わたくしはそことご無事で戻つてくださる。」

「白い夕顔の咲く家の
女とだけ、あなたが
忘れずにいて下さつたら

光源氏/風間杜夫
御息所/梶三和子/葵の上/田島令子/瞳月夜/風吹/ココ/夕顔/秋尾みどり/紫の上/横山めぐみ
椎崎/天崎/滋/桐壺/野沢那智/頭中将/津嘉山正種
北山の僧都/常富士男(友情出演)
藤壺/大原麗子(特別出演)



朝日新聞(東京本社)創刊100周年/テレビ朝日開局30周年/日本ヘラルド映画創立30周年記念作品

製作/朝日新聞社/テレビ朝日/日本ヘラルド映画グループ●プロデューサー/原 正人/田代敦巳●監督/杉井ギサブロー●脚本/筒井ともみ●音楽/細野晴臣(サントラ盤:EPIC・ソニー)
アニメーション監督/前田亮生●美術/馬郡美保子●設定デザイン/兎玉斎夫●キャラクター原案/林 静一●作画監督・キャラクターデザイン/名倉靖博●撮影/杉村重郎●編集/古川雅士
アシスタントプロデューサー/藤田 健●効果/柏原 満●録音/林 昌平●音響/田代敦巳●プロデューサー補/伊藤正昭/山下健一郎
製作プロダクション/グループ・タック/ヘラルド・エース●配給/日本ヘラルド映画

源氏物語

紫式部 Murasaki Shikibu
THE TALE OF GENJI

華やかな宫廷を舞台に
繰り広げられる光源氏と
女性たちとの愛と葛藤の
一大ロマン。

時を超えて変わらぬ男女の愛の機微。
ときめき、せつなさ、喜び、悲哀、はかなさ
が光源氏とともに登場する女性たちのそれぞ
れの生き方、愛の在り方の中で見事に描かれ、
それぞれに読者の心をとらえます。云うまで
もなく、日本古典文学の最高傑作であり、又
海外にも広く紹介され、世界文学史上でもこ
の作品の価値は高く評価されています。

また、この作品はその後の日本文学の作家
たちの、その創作においても、バイブル的と
いえる強い影響を与えてつけ、「源氏物語」
そのものに対しても、数々の作家が現代語訳
し、「与謝野源氏」「谷崎源氏」「田辺
源氏」等々と呼ばれ多くの読者に親しまれ、
新たな「源氏ファン」を生み続けています。

この長編アニメ映画『源氏物語』は夏目漱
石の『それから』など、斬新な感性で数々の
脚本を書き上げ、今最も注目される脚本家、
筒井ともみが『源氏物語』原典から脚本を書
き下ろし、監督が宮澤賢治の『銀河鉄道の夜』
をアニメ化し、名作を作り上げた杉井ギサブ
ロー、音楽は、平安時代の持つ雰囲気に強

い興味を抱きつづけているという世界的ミニ
ージシヤン・細野晴臣が担当します。いわば、
この映画は脚本の『筒井源氏』監督の『杉井
源氏』音楽の『細野源氏』とも云うべき、大
きな三つの才能がイメージする源氏世界が映
像化にむけて融合した作品です。

◆危険で本当のしゃれ者の光源氏、登場!

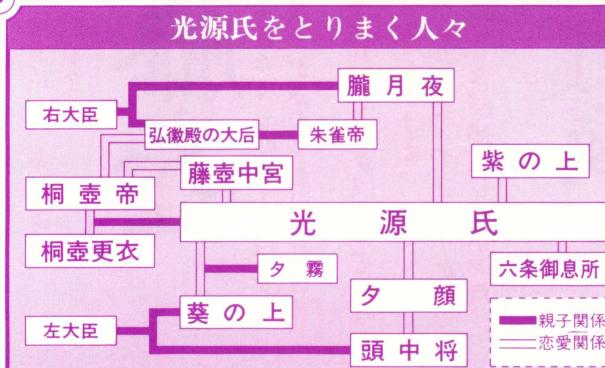
『平安時代に生きる光源氏の現世と、それを
映画で観る今人の現世。この千年の時の隔

にとつては価値がないと感じてしまう人物だ
からこそ、時代を超えて、彼に同調でき、そ
こに魅力があるのでは――。平安文化には無
駄のない洗練された美学があり、映画では徹
底した美意識の追求をしていきたい。又、ア
ニメのキャラクターも観る人に「やっぽり、
日本人の体つてきれいだ」と感じてもらえる
ものにしたい。』
(杉井ギサブロー談)

この映画では全五十四回の中から桐壺から
須磨まで、源氏がまだ大人になり切らず、何
かを求めてづけている青春時代に焦点をあて、
いわば源氏物語の春の巻ともいえるものです。

アニメだからこそ表現でき得た華麗にして
織細なる平安貴族の雅びの世界――そこで織
りなされる女性たちの恋の生きざま――。
この映画では全五十四回の中から桐壺から
須磨まで、源氏がまだ大人になり切らず、何
かを求めてづけている青春時代に焦点をあて、
いわば源氏物語の春の巻ともいえるものです。

名作「銀河鉄道の夜」を贈った朝日新聞
テレビ朝日、日本へラルド映画が最高のスタ
ッフで製作するアニメ第三弾『源氏物語』は
『映像源氏』の決定版として、ロードショウ公開
されます。



◆世紀末のヨーロッパ文化に通ずる甘美な世界を

「あの時代は亞熱帯のような日本だ
つたのではないか。あの時代に流れ
ている音楽はすごく無国籍風で開放
感があり、リズムもはつきりしてい
る。輸入文化が原形のまま存在して
いるような、今の日本では想像でき
ない文化があつた。『源氏物語』を日本文学の
古典の枠の中で語らないで、世紀末のヨーロ
ッパ文化に通じるような地球レベルでの爛熟
した文化と甘美な世界として展開したい。』
(細野晴臣談)



12月19日(土)正月ロードショー!

■前売鑑賞券・一般1200円・学生(大・高・中)1100円・小学生800円・ペア券2200円好評発売中!

有楽町・東宝映画街
日比谷 みゆき座 (591)
5357